

銀座・京橋・日本橋／中央通り照明デザイン国際競技

関東地方整備局 東京国道事務所 管理第二課 専門員 羽澤栄市

1. はじめに・・・照明灯の更新について

東京の中央通り(一般国道15号他, 銀座8丁目～日本橋室町3丁目交差点, 延長L=2.9km)の道路照明灯は、ガス灯をイメージした格調高いデザインが取り入れられ、通りの雰囲気と調和し、永い間、地元をはじめ日本の多くの方々に親しまれてきた(図-1 参照)。しかしながら、設置から既に39年が経過し、現行の耐風基準に適應できておらず、また老朽化が進んでおり、平成17年夏には7基を緊急的に同型で建て替えを実施するなど、早急にリニューアルする必要がある。

東京国道事務所では、現在の照明灯を更新するため平成18年6月より実行委員会「銀座・京橋・日本橋／中央通り照明デザイン国際競技(TOKYO LIGHTS)」を組織し、国内はもとより世界の多様な才能の積極的なデザイン提案を得ることとして、世界に向けて競技への公募を行うことにより、新しい照明デザインの策定の作業を進めてきたものである。

本報告では、現在進められている中央通り照明灯の更新について報告するものである。

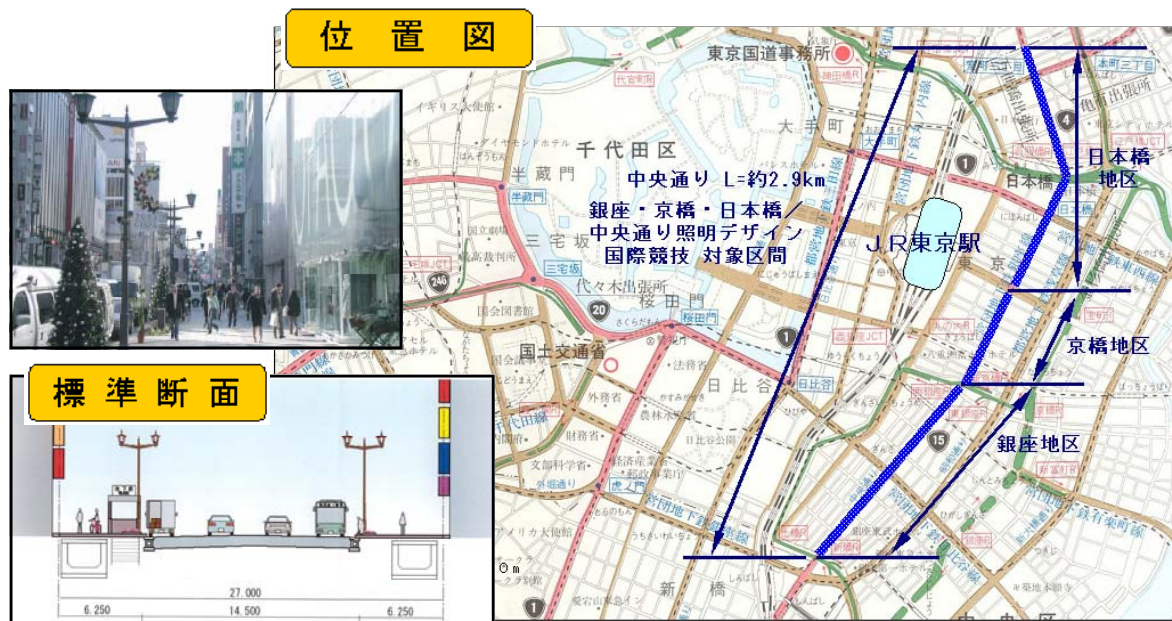


図-1 中央通り照明灯更新の対象区間と標準断面

2. 現在の照明灯の歴史・・・照明灯の移り変わり

照明灯の変遷を振り返ると、明治の初め銀座煉瓦街建設の頃のガス灯から始まり、戦後等の時代背景や、路面電車の廃止・歩道の拡幅等の“大規模な道路改修の時”に新しい照明へと切り替わってきた(図-2 参照)。明治15年にガス灯から電気を使用するアーク灯への変更、大正10年には照明灯グローブのデザインを丸形にし、昭和28年には電球を水銀灯へ、さらに昭和43年には開発されて間もないメタルハライドランプ採用など、常に新しい技術を導入してきた歴史がある。

現在の照明灯は、日本の製品や技術の海外輸出が盛んであった『いざなぎ景気の時代

(1965～1970年)』に設置されたデザインであり、路面電車の廃止にあわせて行われた“大規模な道路改修の時”に、照明の光による見え方の実験やデザインについて試行錯誤を繰り返し、地元とも調整しながら練り上げた格調高いデザインであった。この結果、整備の翌年にはヨーロッパの照明専門誌においても紹介された経緯がある。

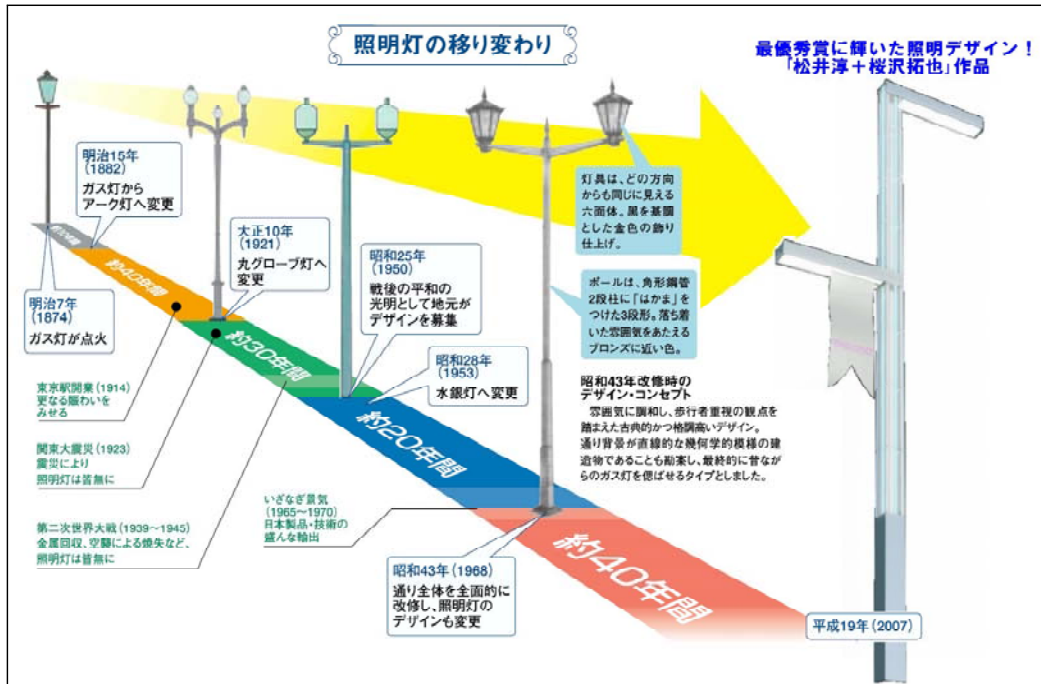


図-2 中央通り(銀座通り)照明灯の移り変わり

3. どう更新するか・・・運営体制とスケジュール

現在の照明灯が、前述のように、当時の技術の粋を集めた格調高いデザインであり、設置から既に40年近く経過した今日においても周囲の景観にマッチしていることから、当時のままのデザインで更新されていない。

しかしながら、照明灯の老朽化がかなり進んでいる状態であり、道路の維持管理の観点から考えると早急に更新が必要と判断されました。更新にあたっては、現在の照明灯に替わる『日本を代表する3地域(銀座、京橋、日本橋)にふさわしい品格と魅力を持ち、21世紀の中央通りの象徴的存在となりうる道路照明灯』とするため、地元の方々の積極的な参加を得ながら実行委員会を組織し、国内はもとより世界から素晴らしいデザイン提案を求めることとした。

これまでの経過は次に示すとおり(図-3 参照)であるが、道路照明灯のデザインをコンペティションにより世界から公募して決めるという、前例のない方法を選んだことから、実行委員会設立前に立ち上げ準備会議を2回開くなど、短い期間の中で、後に審査委員となられる専門家の先生方に助言を頂きながら準備を進めた。

先生方からは、「デザイナーの権利の取り扱い」「作品の類似性のチェック」「審査の公平性の確保」などの指導を頂き、「デザイナーの権利の取り扱い」に関しては「著作人格権」＝氏名表示権(著作物に自分の氏名を表示する権利)、公表権(自身の作品を公表して世に出すか決定する権利)、同一性保持権(作者の意に反して作品又は作品名に改変を加えられない権利)は絶対に保護される権利であることを指導頂き、通常工事で取り扱う照明灯との違いを感じた。

「作品の類似性のチェック」では、審査の段階で最優秀作品が既存のものと同様性を指摘されると問題が発生するため、国内だけでなく海外を含めてチェックする必要があり、特許庁の検索システム、海外の関連資料、メーカーカタログ等から確認作業を実施した。

「審査の公平性」では、公平性を保つため、応募者に関する情報は、審査員に分からないようにする必要があり、関係者でも特定の者に限った。

また、それぞれ個性のある3地区の照明灯更新であり、地域の方々の意見を十分に反映させるため、地元代表者の方を委員として迎えることによって、各地区への説明、地元イベントとの連携、地元に向けた広報資料の作成など配慮した。

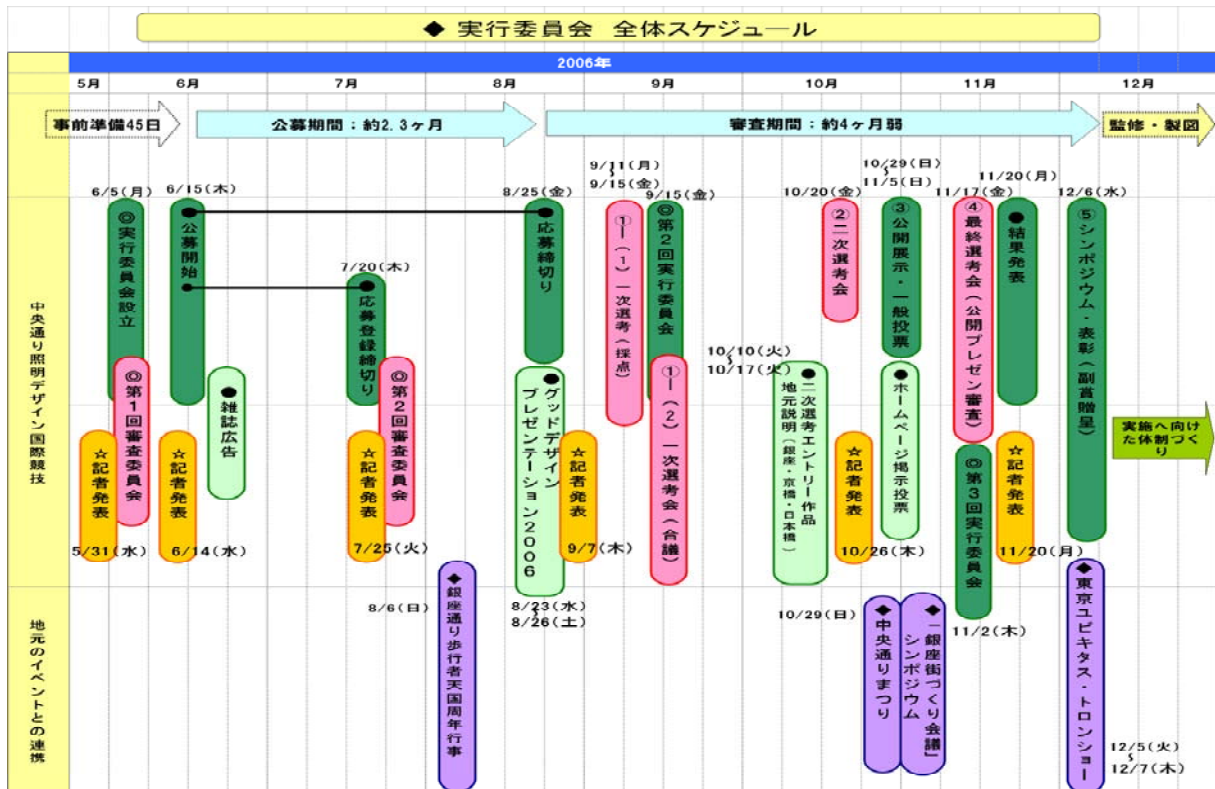


図-3 中央通り照明デザイン国際競技のスケジュール

4. 中央通り照明デザイン国際競技の積極的な広報・・・世界へ向けて情報発信

世界へ向けた情報発信として、インターネットを活用し、二カ国語(英語, 日本語)を用いた実行委員会『TOKYO LIGHTS』のホームページを立ち上げた。これにより、世界に向けた情報提供と国際競技の参加窓口、各種イベントとの連携や、一般の方が審査に参加出来るホームページ投票など、総合的な情報提供を行った。また、実行委員会の主催として、地元の方々に参加して頂くこと、照明やデザイン関係の学会や団体等 14 団体に本国際競技の後援団体になってもらい、地域から、また専門家まで広く情報提供が出来た。加えて、日本の学会誌、専門誌、海外の知名度のある専門誌に広告を掲載するとともに、ポスター・チラシを活用しデザイン関係の大学、団体等へ配布する等の種々の手法を用い広く広報を行った。この結果が 280 作品(うち海外提出 53 作品)の提出に結びついたと考える。

5. 国際競技の結果について・・・最優秀作品決定!

国内外に向けた情報発信を行ってきた結果、ホームページでは6月15日の公募開始

から12月6日のシンポジウム・表彰式までの約6ヶ月間で263,271件のアクセスがありました。

国際競技への応募登録数は世界29カ国から1,181件（うち国内953件、海外228件）あり、作品提出数は世界18カ国から280作品（うち国内227作品、海外53作品）と多くのデザイン提案を得られました。

これらの提案から1次選考、2次選考、公開展示・一般投票、公開プレゼンテーションを経て最終選考を行い、前橋工科大学・松井助教授と桜沢拓也氏の作品『FOUR S FOR S』を最優秀賞として選考(図-5 参照)した。この他、優秀賞1作品、佳作3作品及び一般投票の上位1位作品を市民賞として選定した。

なお、今回の国際競技では地元の方々の積極的な参加の結果、公開展示・一般投票の会場は地域の方の協力により7箇所の展示場所を提供頂きました。

本国際競技の結果はホームページ《 <http://www.tokyoights.jp/> 》でも公表しているのではありません。是非ご参照ください。



図-5 最優秀賞

6. 最後に・・・今後の課題

今回、中央通り照明デザイン国際競技により新しい照明灯のデザインが決定した。これは、照明灯の歴史に新たな1ページが加わることになると考えている。今後は、新しい照明灯の実現に向け、3地区の意見を調整する場を設け、試作品によりデザインを地元の方々に体感してもらいなどの方法を用いて調整していく予定である。さらに、今回の照明デザイン選定の取り組みについて、初めての国際競技であったため、経過等を記録としてまとめていく予定である。